

満濃池

(まんのういけ)



ゆる抜き

ため池の概要

ため池の所在地

香川県仲多度郡まんのう町

ため池の特徴

満濃池は、弘法大師空海が造った日本最大級のため池で、丸亀平野3200haの田畑を潤しています。毎年6月13日の「満濃池初ゆる抜き式典」は、田植え前の重要な行事であると同時に、多くの見物客で賑わう香川の風物詩です。

樋門は、明治三年の再々築の際に掘られた石穴の坑口であり、五角形迫石を使用し石庭のコーニス、袖壁、柱頭付端柱で坑門を飾っており、登録有形文化財に指定されています。

讃岐平野は大陸や朝鮮半島の影響を受けて早くから開拓され、大和と吉備の二つの文化圏に近接するという地理的条件から、稲作の重要拠点の一つとなり、大宝年間(701-704)には、この地にため池が築かれたとされています。

しかし、度重なる洪水に見舞われ何度も決壊したため、弘仁11年(820年)、築池使として路真人浜継(みちまひとはまつく)が金蔵川をせき止めて池とする工事に着手しました。弘仁12年には、京都から空海が讃岐に入り、約3ヶ月で完成させたとされています。

空海は工事の見渡せる岩山に護摩壇を設け修行を行い、読経の流れる宗教的雰囲気の中で工事が行われたとされています。

関連情報

讃岐のため池誌(編集) 讃岐のため池誌編さん委員会
(発行) 香川県農政水産部土地改良課